

# 野村DC日本株式アクティブファンド

## 運用報告書(全体版)

第19期（決算日2026年2月27日）

作成対象期間（2025年2月28日～2026年2月27日）

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。  
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。  
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

#### ●当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	2006年12月28日以降、無期限とします。	
運用方針	野村DC日本株式アクティブファンドと実質的に同一の運用の基本方針を有する親投資信託であるノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、主としてわが国の株式に投資し、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。わが国の株式への投資にあたっては、上場株式および店頭登録銘柄の中から、株価の割安性をベースに企業の収益性、成長性、安定性等を総合的に勘案して銘柄を選定し、投資を行なうことを基本とします。なお、一部、アジア諸国の株式に投資を行なう場合があります。株式の実質組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。	
主な投資対象	野村DC日本株式アクティブファンド	マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、直接株式に投資する場合があります。
	マザーファンド	わが国の株式を主要投資対象とします。
主な投資制限	野村DC日本株式アクティブファンド	株式への実質投資割合には制限を設けません。
	マザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、原則として繰越分を含めた利子、配当収入と売買益等から基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。	

### 野村アセットマネジメント株式会社

東京都江東区豊洲二丁目2番1号

●サポートダイヤル

**0120-753104**（受付時間）営業日の午前9時～午後5時

●ホームページ

<https://www.nomura-am.co.jp/>

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額		ベンチマーク		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
		税込配分	期中騰落率	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	期中騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
15期(2022年2月28日)	14,404	5	0.8	3,012.57	1.3	98.2	—	4,347
16期(2023年2月27日)	15,638	5	8.6	3,268.15	8.5	98.2	—	4,636
17期(2024年2月27日)	22,042	5	41.0	4,502.49	37.8	99.5	—	6,787
18期(2025年2月27日)	24,322	5	10.4	4,709.16	4.6	98.7	—	6,922
19期(2026年2月27日)	43,118	0	77.3	6,947.17	47.5	98.0	—	12,198

\* 基準価額の騰落率は分配金込み。

\* 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

\* 株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	基準価額		ベンチマーク		株式組入比率	株式先物比率
		騰落率	騰落率	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	騰落率		
(期首) 2025年2月27日	円 24,322	% —	% —	4,709.16	% —	% 98.7	% —
2月末	23,747	△ 2.4	△ 2.0	4,616.34	△ 2.0	98.0	—
3月末	23,331	△ 4.1	△ 1.8	4,626.52	△ 1.8	97.9	—
4月末	22,805	△ 6.2	△ 1.4	4,641.96	△ 1.4	98.2	—
5月末	24,579	1.1	3.6	4,878.83	3.6	98.2	—
6月末	25,783	6.0	5.6	4,974.53	5.6	98.3	—
7月末	27,216	11.9	9.0	5,132.22	9.0	98.8	—
8月末	29,184	20.0	13.9	5,363.98	13.9	97.2	—
9月末	30,457	25.2	17.3	5,523.68	17.3	97.1	—
10月末	33,601	38.2	24.6	5,865.99	24.6	97.6	—
11月末	33,720	38.6	26.3	5,949.55	26.3	98.6	—
12月末	33,759	38.8	27.6	6,010.98	27.6	98.9	—
2026年1月末	36,616	50.5	33.5	6,288.77	33.5	97.8	—
(期末) 2026年2月27日	43,118	77.3	47.5	6,947.17	47.5	98.0	—

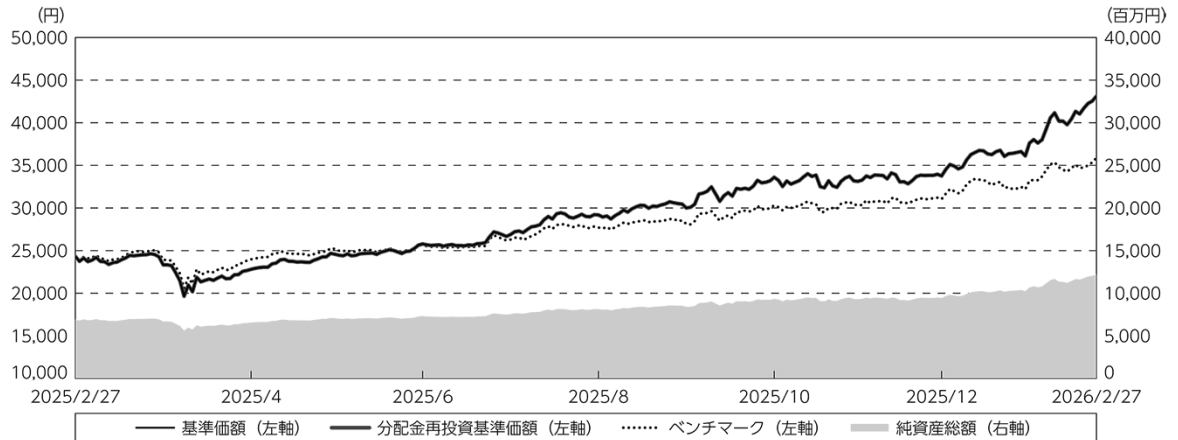
\* 騰落率は期首比です。

\* 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

\* 株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

## ◎運用経過

### ○期中の基準価額等の推移



期 首：24,322円

期 末：43,118円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率： 77.3% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2025年2月27日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)(配当込み)です。ベンチマークは、作成期首(2025年2月27日)の値が基準価額と同一となるように計算しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

### ○基準価額の主な変動要因

(上昇)

- ・ 生成AIの普及に伴うAI関連企業の業績拡大が注目されたこと。
- ・ 日米の関税交渉進展により日本に対する関税率が引き下げられたこと。
- ・ 自民党の新総裁に高市早苗氏が選ばれたことにより、積極的な経済政策への期待が高まったこと。
- ・ 衆議院選挙で自民党が大勝したことから、今後の政策実現への期待が高まったこと。

(下落)

- ・ トランプ米政権による相互関税の詳細発表を受けて、世界景気全体への悪影響に対する不安が高まったこと。
- ・ AI関連企業の利益成長に対する懸念が市場で高まったこと。

## ○投資環境

期首から期末にかけて、国内株式市場は上昇しました。4月にトランプ米政権による貿易相手国に対する相互関税の詳細が発表されたことを受けて、世界景気全体への悪影響に対する不安が高まったことなどから急落する場面がありましたが、相互関税上乘せ部分の一時停止を発表したことから上昇に転じました。その後も自民党の新総裁に高市早苗氏が選ばれたことにより積極的な経済政策への期待が高まったことや、AIの需要拡大に対する期待が高まったことなどから、国内株式市場は上昇しました。2026年に入っても、自民党が衆議院選挙で大勝したことを受けて今後の政策実現への期待が高まったことなどから、国内株式市場は上昇が続きま

## ○当ファンドのポートフォリオ

### 当ファンド

期を通じて、マザーファンドを高位に組み入れました。

### マザーファンド

#### [ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド]

運用の基本方針に基づき株式組入比率を高位に維持しました。

#### ・期中の主な動き

特定の分野・事業領域で高い市場シェアを持つなど競争力や経営力が高く、中長期的に堅調な業績拡大が期待できる企業に着目し、主にPER（株価収益率）などのバリュエーション指標に基づき、中長期で割安と思われる銘柄に投資しました。

#### <投資割合を引き上げた主な業種（東証33業種分類、以下同じ）と銘柄>

##### ①非鉄金属

住友電気工業、DOWAホールディングスなど

##### ②機械

小松製作所、ディスコなど

##### ③電気機器

ソニーグループ、東京エレクトロンなど

#### <投資割合を引き下げた主な業種と銘柄>

##### ①情報・通信業

ソフトバンクグループ、NTTなど

- ②証券、商品先物取引業  
大和証券グループ本社
- ③ガラス・土石製品  
日本電気硝子、TOTO

## ○当ファンドのベンチマークとの差異

### \*ベンチマーク対比では29.8%のプラス

基準価額の騰落率は+77.3%となり、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)(配当込み)の+47.5%を、29.8%上回りました。

### 【主な差異要因】

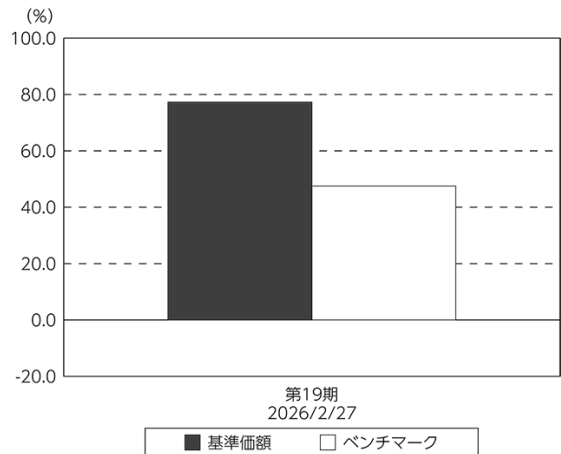
#### (プラス要因)

- ①ベンチマークに比べてパフォーマンスが良かった古河電気工業、三井金属、住友不動産、イビデン、精工技研などの投資比率が相対的に高かったこと。
- ②ベンチマークに比べてパフォーマンスが良かった非鉄金属などの投資比率が相対的に高かったこと。
- ③ベンチマークに比べてパフォーマンスが悪かった情報・通信業などの投資比率が相対的に低かったこと。

#### (マイナス要因)

- ①ベンチマークに比べてパフォーマンスが悪かった東京地下鉄、日東電工、住友林業、富士通、ツムラなどの投資比率が相対的に高かったこと。
- ②ベンチマークに比べてパフォーマンスが良かった卸売業、銀行業などの投資比率が相対的に低かったこと。

基準価額とベンチマークの対比 (期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) ベンチマークは、東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) です。

## ◎分配金

収益分配金は、当ファンドの分配方針に基づき、次表の通りとさせていただきます。

## ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項 目	第19期
	2025年2月28日～ 2026年2月27日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	33,226

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## ◎今後の運用方針

### 当ファンド

マザーファンドを高位に組み入れます。

### マザーファンド

成長産業において業界内で競争力を有する銘柄や、成熟産業において勝ち残る可能性の高い銘柄、特定の分野・事業領域で高い市場シェアを持っている銘柄などに注目し、業績に見合った株価の銘柄を選別していく方針です。

当ファンドでは競争力が高く中長期で堅調な業績が見込める銘柄を、割安なタイミングで組み入れていくという基本戦略に基づき、ベンチマークを上回るリターンを目指します。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2025年2月28日～2026年2月27日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 273	% 0.951	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	(145)	(0.505)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
( 販 売 会 社 )	(110)	(0.384)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
( 受 託 会 社 )	( 18)	(0.063)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売 買 委 託 手 数 料	17	0.058	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
( 株 式 )	( 17)	(0.058)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.003	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 1)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	291	1.012	
期中の平均基準価額は、28,733円です。			

\* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

\* 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

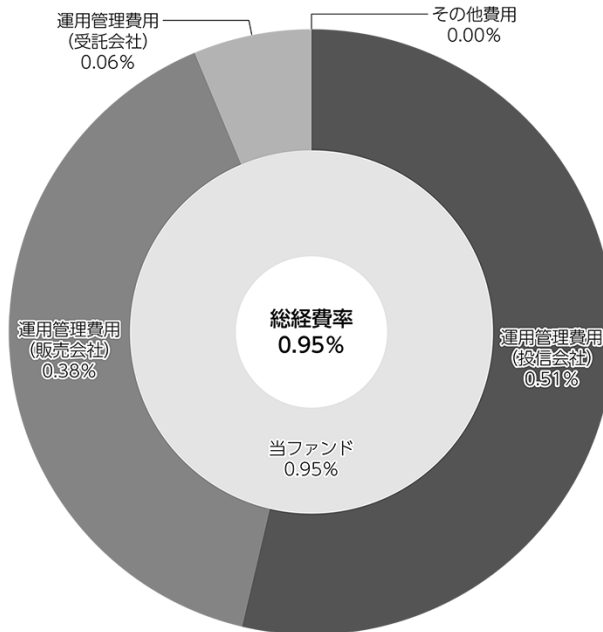
\* 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

\* 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## (参考情報)

## ○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.95%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 当ファンドのその他費用には、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用が含まれます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ○売買及び取引の状況

(2025年2月28日～2026年2月27日)

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド	千口 235,846	千円 1,219,900	千口 262,808	千円 1,319,100

\*単位未満は切り捨て。

## ○株式売買比率

(2025年2月28日～2026年2月27日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
	ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	289,126,034千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	295,858,920千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.97

\*(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

## ○利害関係人との取引状況等

(2025年2月28日～2026年2月27日)

## 利害関係人との取引状況

&lt;野村DC日本株式アクティブファンド&gt;

該当事項はございません。

&lt;ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド&gt;

区分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$		うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$	
株式	百万円 163,846	百万円 47,066	% 28.7	百万円 125,279	百万円 33,864	% 27.0

平均保有割合 2.9%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該子ファンドのマザーファンド所有口数の割合。

### 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	4,725千円
うち利害関係人への支払額 (B)	1,274千円
(B) / (A)	27.0%

\* 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは野村証券株式会社です。

### ○組入資産の明細

(2026年2月27日現在)

#### 親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド	千口 1,668,793	千口 1,641,831	千円 12,174,838

\* 口数・評価額の単位未満は切り捨て。

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「運用報告書」をご参照ください。

### ○投資信託財産の構成

(2026年2月27日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド	千円 12,174,838	% 99.0
コール・ローン等、その他	128,266	1.0
投資信託財産総額	12,303,104	100.0

\* 金額の単位未満は切り捨て。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2026年2月27日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	12,303,104,353
コール・ローン等	111,863,919
ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド(評価額)	12,174,838,165
未収入金	16,400,000
未収利息	2,269
(B) 負債	104,161,967
未払解約金	58,682,251
未払信託報酬	45,322,593
その他未払費用	157,123
(C) 純資産総額(A-B)	12,198,942,386
元本	2,829,205,195
次期繰越損益金	9,369,737,191
(D) 受益権総口数	2,829,205,195口
1万口当たり基準価額(C/D)	43,118円

(注) 期首元本額は2,846,042,015円、期中追加設定元本額は893,526,204円、期中一部解約元本額は910,363,024円、1口当たり純資産額は4,3118円です。

## ○損益の状況 (2025年2月28日～2026年2月27日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	256,021
受取利息	256,021
(B) 有価証券売買損益	4,872,035,522
売買益	5,392,410,523
売買損	△ 520,375,001
(C) 信託報酬等	△ 78,755,793
(D) 当期損益金(A+B+C)	4,793,535,750
(E) 前期繰越損益金	1,426,276,548
(F) 追加信託差損益金	3,149,924,893
(配当等相当額)	( 3,175,895,785)
(売買損益相当額)	(△ 25,970,892)
(G) 計(D+E+F)	9,369,737,191
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	9,369,737,191
追加信託差損益金	3,149,924,893
(配当等相当額)	( 3,180,574,303)
(売買損益相当額)	(△ 30,649,410)
分配準備積立金	6,219,812,298

\*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

\*損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

\*損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程 (2025年2月28日～2026年2月27日) は以下の通りです。

項 目	当 期
	2025年2月28日～ 2026年2月27日
a. 配当等収益(経費控除後)	173,726,790円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	4,619,808,960円
c. 信託約款に定める収益調整金	3,180,574,303円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	1,426,276,548円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	9,400,386,601円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	33,226円
g. 分配金	0円
h. 分配金(1万口当たり)	0円

## ○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税込み)	0円
----------------	----

## ○お知らせ

---

- ①「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正に伴い、運用報告書の電子交付に関する条文を変更する所要の約款変更を行ないました。 <変更適用日：2025年4月1日>
- ②「ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド」に適用する信託法を旧法（信託法（大正11年法律第62号））から新法（信託法（平成18年法律第108号））に変更する所要の変更を行ないました。 <変更適用日：2025年6月19日>
- ③「ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド」を存続マザーファンド、「ノムラ日本株戦略ファンド マザーファンド」を消滅マザーファンドとする、投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」を行なう所要の約款変更を行ないました。 <変更適用日：2025年8月28日>

# ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド

## 運用報告書

第25期（決算日2026年2月27日）

作成対象期間（2025年2月28日～2026年2月27日）

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。  
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。  
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。 運用については、ボトムアップ・アプローチをベースとしたアクティブ運用を行ないます。 わが国の株式への投資にあたっては、上場株式および店頭登録銘柄の中から、株価の割安性をベースに企業の収益性、成長性、安定性等を総合的に勘案して銘柄を選定し、投資を行なうことを基本とします。 株式の組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。
主な投資対象	わが国の株式を主要投資対象とします。
主な投資制限	株式への投資割合には制限を設けません。

野村アセットマネジメント株式会社

東京都江東区豊洲二丁目2番1号

<https://www.nomura-am.co.jp/>

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		ベンチマーク		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	騰落	期中率	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	騰落率			
21期(2022年2月28日)	円	%		%	%	%	百万円
	23,730	1.7	3,012.57	1.3	98.4	—	62,628
22期(2023年2月27日)	26,033	9.7	3,268.15	8.5	98.4	—	86,886
23期(2024年2月27日)	37,098	42.5	4,502.49	37.8	99.7	—	187,710
24期(2025年2月27日)	41,397	11.6	4,709.16	4.6	98.9	—	203,002
25期(2026年2月27日)	74,154	79.1	6,947.17	47.5	98.2	—	503,014

\*株式先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

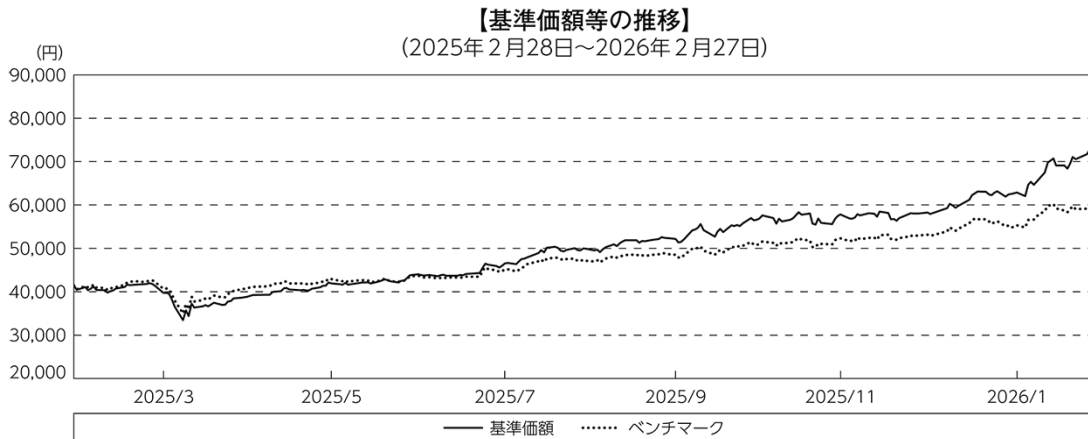
年月日	基準価額		ベンチマーク		株式組入比率	株式先物比率
	騰落	騰落率	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	騰落率		
(期首) 2025年2月27日	円	%		%	%	%
	41,397	—	4,709.16	—	98.9	—
2月末	40,414	△ 2.4	4,616.34	△ 2.0	98.2	—
3月末	39,733	△ 4.0	4,626.52	△ 1.8	98.1	—
4月末	38,869	△ 6.1	4,641.96	△ 1.4	98.4	—
5月末	41,932	1.3	4,878.83	3.6	98.4	—
6月末	44,027	6.4	4,974.53	5.6	98.5	—
7月末	46,510	12.4	5,132.22	9.0	99.0	—
8月末	49,911	20.6	5,363.98	13.9	97.3	—
9月末	52,133	25.9	5,523.68	17.3	97.3	—
10月末	57,576	39.1	5,865.99	24.6	97.8	—
11月末	57,824	39.7	5,949.55	26.3	98.8	—
12月末	57,932	39.9	6,010.98	27.6	99.1	—
2026年1月末	62,895	51.9	6,288.77	33.5	98.0	—
(期末) 2026年2月27日						
	74,154	79.1	6,947.17	47.5	98.2	—

\*騰落率は期首比です。

\*株式先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

## ◎運用経過

### ○期中の基準価額等の推移



(注) ベンチマークは、東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) です。作成期首の値が基準価額と同一となるように計算しております。

### ○基準価額の主な変動要因

(上昇)

- ・ 生成AIの普及に伴うAI関連企業の業績拡大が注目されたこと。
- ・ 日米の関税交渉進展により日本に対する関税率が引き下げられたこと。
- ・ 自民党の新総裁に高市早苗氏が選ばれたことにより、積極的な経済政策への期待が高まったこと。
- ・ 衆議院選挙で自民党が大勝したことから、今後の政策実現への期待が高まったこと。

(下落)

- ・ トランプ米政権による相互関税の詳細発表を受けて、世界景気全体への悪影響に対する不安が高まったこと。
- ・ AI関連企業の利益成長に対する懸念が市場で高まったこと。

## ○当ファンドのポートフォリオ

運用の基本方針に基づき株式組入比率を高位に維持しました。

### ・期中の主な動き

特定の分野・事業領域で高い市場シェアを持つなど競争力や経営力が高く、中長期的に堅調な業績拡大が期待できる企業に着目し、主にPER（株価収益率）などのバリュエーション指標に基づき、中長期で割安と思われる銘柄に投資しました。

### <投資割合を引き上げた主な業種（東証33業種分類、以下同じ）と銘柄>

#### ①非鉄金属

住友電気工業、DOWAホールディングスなど

#### ②機械

小松製作所、ディスコなど

#### ③電気機器

ソニーグループ、東京エレクトロンなど

### <投資割合を引き下げた主な業種と銘柄>

#### ①情報・通信業

ソフトバンクグループ、NTTなど

#### ②証券、商品先物取引業

大和証券グループ本社

#### ③ガラス・土石製品

日本電気硝子、TOTO

## ○当ファンドのベンチマークとの差異

### \* ベンチマーク対比では31.6%のプラス

基準価額の騰落率は+79.1%となり、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）（配当込み）の+47.5%を、31.6%上回りました。

### 【主な差異要因】

#### （プラス要因）

- ①ベンチマークに比べてパフォーマンスが良かった古河電気工業、三井金属、住友不動産、イビデン、精工技研などの投資比率が相対的に高かったこと。
- ②ベンチマークに比べてパフォーマンスが良かった非鉄金属などの投資比率が相対的に高かったこと。
- ③ベンチマークに比べてパフォーマンスが悪かった情報・通信業などの投資比率が相対的に低かったこと。

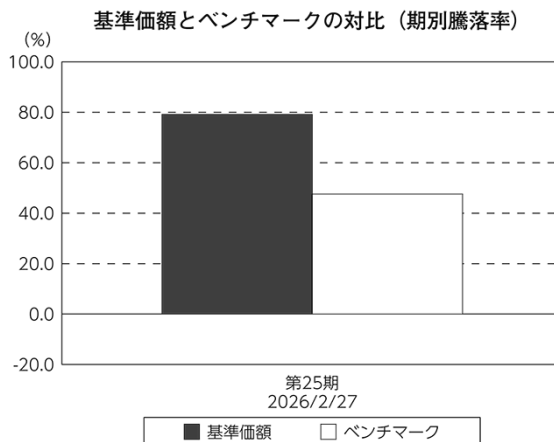
#### （マイナス要因）

- ①ベンチマークに比べてパフォーマンスが悪かった東京地下鉄、日東電工、住友林業、富士通、ツムラなどの投資比率が相対的に高かったこと。
- ②ベンチマークに比べてパフォーマンスが良かった卸売業、銀行業などの投資比率が相対的に低かったこと。

## ◎今後の運用方針

成長産業において業界内で競争力を有する銘柄や、成熟産業において勝ち残る可能性の高い銘柄、特定の分野・事業領域で高い市場シェアを持っている銘柄などに注目し、業績に見合った株価の銘柄を選別していく方針です。

当ファンドでは競争力が高く中長期で堅調な業績が見込める銘柄を、割安なタイミングで組み入れていくという基本戦略に基づき、ベンチマークを上回るリターンを目指します。



(注) ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）です。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2025年2月28日～2026年2月27日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 ( 株 式 )	円 30 (30)	% 0.060 (0.060)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
合 計	30	0.060	
期中の平均基準価額は、49,146円です。			

\*各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

\*各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2025年2月28日～2026年2月27日)

## 株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上場	千株 54,663 (39,536)	千円 163,846,168 ( )	千株 78,499	千円 125,279,865

\*金額は受け渡し代金。

\*単位未満は切り捨て。

\* ( ) 内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

## ○株式売買比率

(2025年2月28日～2026年2月27日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	289,126,034千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	295,858,920千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.97

\* (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

## ○利害関係人との取引状況等

(2025年2月28日～2026年2月27日)

## 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 163,846	百万円 47,066	% 28.7	百万円 125,279	百万円 33,864	% 27.0

## 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	168,046千円
うち利害関係人への支払額 (B)	46,930千円
(B) / (A)	27.9%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは野村證券株式会社です。

(2026年2月27日現在)

## ○組入資産の明細

## 国内株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
<b>水産・農林業 (1.1%)</b>				
ニッスイ	2,905	3,340	5,173,660	
<b>鉱業 (2.0%)</b>				
I N P E X	1,567.8	2,630	9,994,000	
<b>建設業 (4.3%)</b>				
大成建設	—	556	11,309,040	
鹿島建設	1,290	—	—	
住友林業	1,100	3,500	5,932,500	
高砂熱学工業	345	718	3,762,320	
<b>食料品 (0.6%)</b>				
江崎グリコ	225	275.7	1,672,396	
キュービー	—	234	1,047,852	
<b>化学 (4.0%)</b>				
レゾナック・ホールディングス	768	345.6	4,123,008	
大阪ソーダ	—	632.2	1,488,198	
大阪有機化学工業	190	—	—	
資生堂	246	—	—	
デクセリアルズ	—	1,222.2	3,162,442	
日東電工	1,770	3,000	10,911,000	
<b>医薬品 (1.7%)</b>				
ツムラ	469	627	2,627,130	
大塚ホールディングス	382.5	521	5,579,910	
<b>ゴム製品 (1.9%)</b>				
横浜ゴム	1,420	1,215.7	9,582,147	
<b>ガラス・土石製品 (1.7%)</b>				
日東紡績	—	82	2,066,400	
日本電気硝子	1,365	—	—	
東海カーボン	410	1,270	1,414,145	
東洋炭素	329	376.1	2,391,996	
T O T O	220	—	—	
日本硝子	—	600	2,752,200	
<b>鉄鋼 (0.5%)</b>				
日本製鉄	410	—	—	
神戸製鋼所	—	590	1,342,250	
丸一鋼管	—	550	893,750	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
<b>非鉄金属 (15.8%)</b>				
三井金属	456	155	5,721,050	
住友金属鉱山	—	670	8,458,750	
DOWAホールディングス	—	270	3,118,500	
大阪チタニウムテクノロジーズ	—	720	2,228,400	
古河電気工業	1,569	1,360	38,216,000	
住友電気工業	—	380	3,942,500	
フジクラ	1,282	480	12,847,200	
SWCC	—	220	3,399,000	
<b>金属製品 (0.6%)</b>				
日本発條	770	941	2,832,410	
<b>機械 (8.3%)</b>				
日本製鋼所	730	1,118	11,425,960	
三浦工業	110	—	—	
アマダ	—	1,453.4	3,782,473	
F U J I	—	693	4,221,063	
オーエスジー	—	519	1,518,853	
DMG森精機	—	660	2,043,360	
ディスコ	—	77	5,813,500	
小松製作所	—	1,110	8,361,630	
オルガノ	270	—	—	
サムコ	140	141	889,710	
C K D	370	—	—	
THK	—	550	3,100,350	
<b>電気機器 (18.6%)</b>				
キオクシアホールディングス	—	155.5	3,298,155	
イビデン	275.3	820	7,820,340	
日立製作所	1,427	—	—	
三菱電機	—	1,400	8,387,400	
日東工業	—	110	534,600	
富士通	2,750	3,500	12,558,000	
ルネサスエレクトロニクス	—	770	2,286,130	
アンリツ	880	1,100	3,329,700	
ソニーグループ	—	2,345	8,542,835	
アルプスアルパイン	—	590	1,383,255	

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
マクセル	369	—	—
精工技研	290	320	6,924,800
アドバンテスト	—	234	6,282,900
ファナック	1,800	1,700	12,092,100
浜松ホトニクス	365.4	—	—
京セラ	1,250	—	—
村田製作所	—	1,370	5,627,960
東京エレクトロン	—	292	12,850,920
<b>輸送用機器 (3.8%)</b>			
トヨタ自動車	—	4,150	15,873,750
NOK	895	—	—
マツダ	—	2,000	2,777,000
本田技研工業	3,050	—	—
スズキ	1,550	—	—
<b>その他製品 (2.4%)</b>			
アシックス	625.1	784.7	3,761,851
任天堂	383.4	680	6,116,600
美津濃	140	523.8	2,129,247
<b>陸運業 (0.7%)</b>			
東京地下鉄	1,070	2,000	3,344,000
<b>海運業 (0.5%)</b>			
商船三井	—	410	2,377,180
<b>倉庫・運輸関連業 (0.7%)</b>			
上組	490.7	601.6	3,498,905
<b>情報・通信業 (2.2%)</b>			
ガンホー・オンライン・エンターテイメント	410	—	—
東映アニメーション	205	265.7	646,979
日本テレビホールディングス	—	500	1,700,000
スカパーJ S A Tホールディングス	—	770	2,210,670
NTT	33,300	—	—
コナミグループ	190	—	—
ソフトバンクグループ	814	1,590	6,501,510
<b>卸売業 (4.4%)</b>			
円谷フィールズホールディングス	860	840	1,304,520
豊田通商	—	1,140	7,966,320
三井物産	1,380	2,057	12,078,704
ミスミグループ本社	—	140	440,720

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
<b>小売業 (3.3%)</b>			
エービーシー・マート	620	—	—
セリア	—	234	1,015,560
セブン&アイ・ホールディングス	510	—	—
FOOD & LIFE COMPANIE	234	314.9	3,169,468
良品計画	275	692.6	2,491,282
ワークマン	—	250	1,945,000
ユナイテッドアローズ	—	290	776,330
日本瓦斯	321	830	2,592,920
しまむら	—	570	2,049,720
イオン	720	1,110	2,471,415
<b>銀行業 (7.7%)</b>			
ゆうちょ銀行	—	910	2,785,510
三菱UFJフィナンシャル・グループ	4,000	5,310	15,762,735
三井住友フィナンシャルグループ	1,557	1,991	11,940,027
七十七銀行	310	—	—
ほくほくフィナンシャルグループ	—	304	1,900,304
みずほフィナンシャルグループ	—	800	5,720,800
<b>証券・商品先物取引業 (1.1%)</b>			
SBIホールディングス	600	1,680	5,628,000
大和証券グループ本社	4,900	—	—
<b>保険業 (2.7%)</b>			
SOMPOホールディングス	590	658.9	4,114,830
ソニーフィナンシャルグループ	—	11,110	1,776,489
第一生命ホールディングス	936.5	4,665.1	7,515,476
<b>その他金融業 (3.3%)</b>			
東京センチュリー	428	537.9	1,228,025
オリックス	—	2,750	15,243,250
<b>不動産業 (4.1%)</b>			
住友不動産	1,540	3,844	20,327,072
<b>サービス業 (2.0%)</b>			
アストロスケールホールディングス	—	2,340	2,457,000
リゾートトラスト	631	1,529	2,958,615
リクルートホールディングス	567.8	637.2	4,375,015
合 計	株数・金額	94,619	110,320
	銘柄数<比率>	68	91
			<98.2%>

\*各銘柄の業種分類は、期首、期末の各時点での分類に基づいてい  
ます。

\*銘柄欄の( )内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

\*評価総額の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

\*評価額の単位未満は切り捨て。

## ○投資信託財産の構成

(2026年2月27日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 494,038,954	% 97.5
コール・ローン等、その他	12,842,080	2.5
投資信託財産総額	506,881,034	100.0

\*金額の単位未満は切り捨て。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2026年2月27日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	506,881,034,381
コール・ローン等	12,102,923,090
株式(評価額)	494,038,954,000
未取配当金	738,911,800
未取利息	245,491
(B) 負債	3,866,788,304
未払金	3,624,788,304
未払解約金	242,000,000
(C) 純資産総額(A-B)	503,014,246,077
元本	67,833,808,373
次期繰越損益金	435,180,437,704
(D) 受益権総口数	67,833,808,373口
1万口当たり基準価額(C/D)	74,154円

(注) 期首元本額は49,037,647,739円、期中追加設定元本額は26,338,694,815円、期中一部解約元本額は7,542,534,181円、1口当たり純資産額は7,4154円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額

- ・ノムラ・ジャパン・オープン 39,984,602,178円
- ・野村国内株式アクティブオープン 11,477,558,968円
- ・野村国内株式アクティブオープン(確定拠出年金向け) 7,057,708,487円
- ・ノムラ・ジャパン・オープンF(適格機関投資家専用) 4,323,662,391円
- ・ノムラ・ジャパン・オープン(確定拠出年金向け) 1,665,038,171円
- ・野村DC日本株式アクティブファンド 1,641,831,616円
- ・ノムラ THE NIPPON 1,176,089,866円
- ・ノムラ・グローバル・オールスターズ 389,142,660円
- ・ノムラ・ジャパン・オープン(野村SMA向け) 118,174,036円

## ○損益の状況 (2025年2月28日～2026年2月27日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	5,955,502,291
受取配当金	5,929,451,795
受取利息	25,999,936
その他収益金	50,560
(B) 有価証券売買損益	195,987,518,990
売買益	208,209,811,397
売買損	△ 12,222,292,407
(C) 当期損益金(A+B)	201,943,021,281
(D) 前期繰越損益金	153,965,202,891
(E) 追加信託差損益金	113,002,579,351
(F) 解約差損益金	△ 33,730,365,819
(G) 計(C+D+E+F)	435,180,437,704
次期繰越損益金(G)	435,180,437,704

\*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

\*損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

\*損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

## ○お知らせ

---

- ①「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正に伴い、運用報告書の電子交付に関する条文を変更する所要の約款変更を行ないました。 <変更適用日：2025年4月1日>
- ②適用する信託法を旧法（信託法（大正11年法律第62号））から新法（信託法（平成18年法律第108号））に変更する所要の変更を行ないました。 <変更適用日：2025年6月19日>
- ③「ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド」を存続マザーファンド、「ノムラ日本株戦略ファンド マザーファンド」を消滅マザーファンドとする、投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」を行なう所要の約款変更を行ないました。 <変更適用日：2025年8月28日>